

横濱佛字新聞「クリエ、デニ、ジャッポン」抄譯
 琉球日本支那三國ノ關係
 前号續

第四号

大藏省
 翻譯課

印



114
A-741
4



琉球日本支那三國ノ關係論

藤井善言 譯

大正十一年四月
大隈侯爵邸藏

備テ前ニ述ヘシ場合ニ於テ尚寧王ガ帰国セシ後殆ト二百五十
 年西曆千八百六十三年ニ當テ琉球ノ位地ハ斯ノ如シ而シテ是
 レハ別人ノ説ニ非ス此般ノ事件ヲバ尤モ善ク辨別スル英國人
 ノ所論ナリ今ヲ距ルト十六年前英國人ガ兵艦ヲ鹿兒島ニ向ケ
 シ此該港ニ碇泊セシ琉球船二艘ハ己ムヲ得ズレテ毀テシニ非
 ス殊更ニ之ヲ燒キシナリ蓋シ此小国ノ船舶ヲ毀テハ薩州遠隔
 ノ属地マテモ禍害ヲ被ラシムルニ足ル可レトノ意ニテ特別ニ
 コゾイ号ニ令シテ燒カレマタルナリ然ルニ此時琉球船ハ支那
 ノ国旗ヲ掲ケ居タリシヲ以テ其後ニ至リ彼レハ支那ノ属国ナ
 リトノ論ヲ起セリ然レモ是ハ確論ニ非ス余輩ハ千八百七十
 四年北京ニ於テ英國公使カードーマスワード氏ガ証人ト為テ

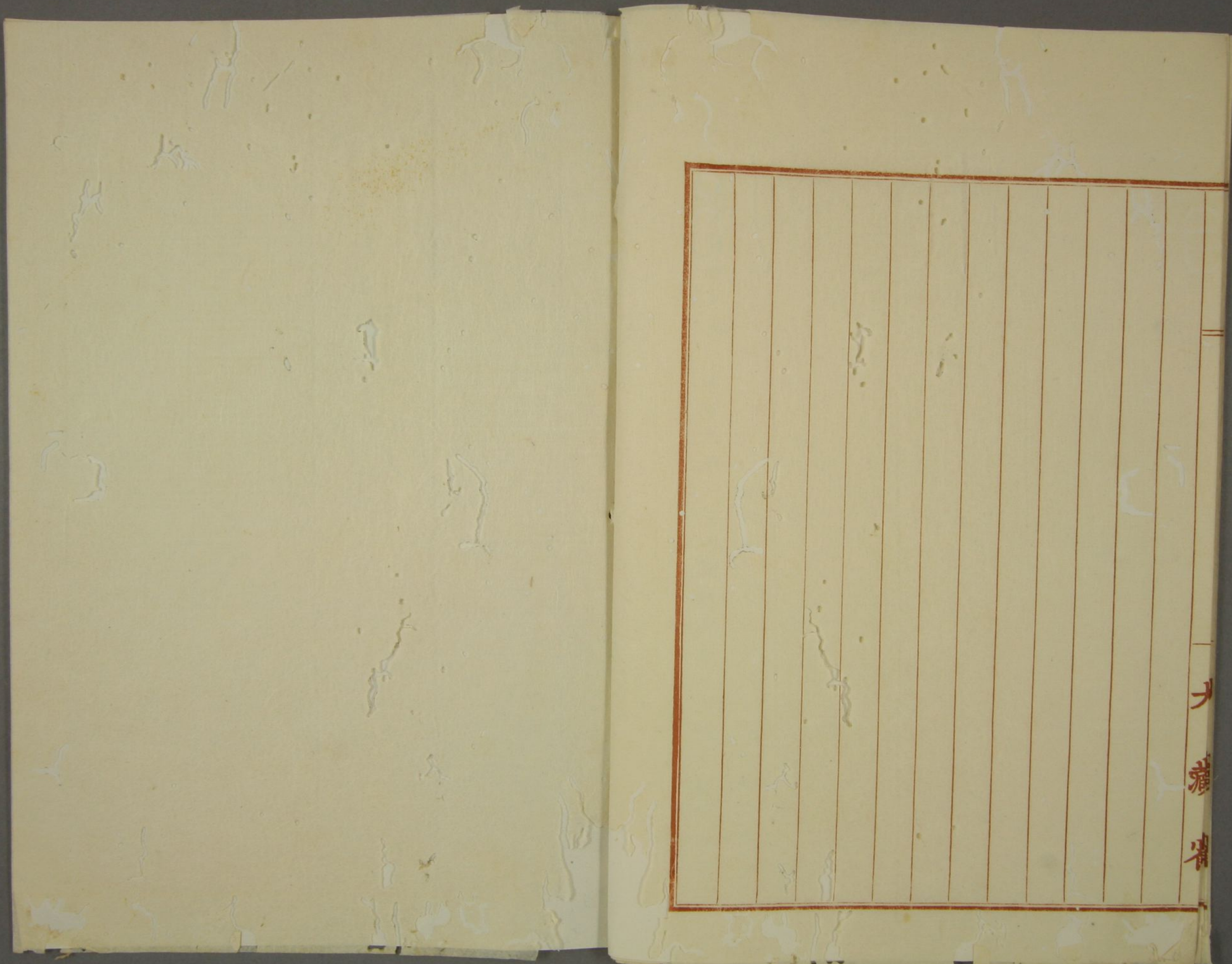
定メタル条約ニ利ヲ得ル方ノ所屬地ナリト認ムル者ナリ
時ニ日本ノ使節ト為テ該条約書ニ調印セル大久保氏ハ初メ該
判中屢々支那人ノ虚諾ニ欺カレシ故カトトマス、ワド氏ガ
支那政府ノ托ヲ受ケ大久保氏ニ謁シ某々ノ件ヲバ日本ノ所望
ニ任セントノ約束ヲ述ヘシキ全氏ハ信用スルニ足ル可キ者一
人北京政府兼諾ノ保証人ト為ルニ非カレバ断然聽納レ難キ旨
ヲ答ヘタリ且ト於テカトトマス、ワド氏ハ平和ヲ保タレ為
メ此危険ナル保証人ト為ルヲ兼引セリ
此千八百七十四年ノ条約ハ其以前臺灣島内支那ノ領地ニ連続
スル一部落ノ蛮民ガ琉球人六十六名ヲ残害セシニ付キ日本ヨ
リ属国民被害ノ補償ヲ要求セルニ依テ起リレ戦争ノ末出来セ
シ事件ニシテ是ガ為メ起リテ論ナレバ支那若シ琉球ハ日
本ニ属スルモノニ非スト辨明セラレタランニハ談判ハ勝タレ

シテ明白ナリ然ルニ該一点ヲ掲ケ出カバハ蓋シ日本ノ琉球
ヲ有スル権理ハ確乎トシテ幸ニ可ラスト思ヒシナランカ該談
判ノ決セカレテ六月餘ニシテ其間曾テ一言モ琉球ニ説キ及
ハス恰モ被害人ノ生回ニ非カルガ如クナリテ故ニ琉球人ノ彼
害一件ニ付キ日本ト支那ノ間ニ起リレ葛藤ヲ和解セル条約ヲ
定メ調印スル時マテ全ク琉球ノ事ヲ除ケテ談判セリト云フ可
シ而ノ其時初メテ琉球ノ事ニ説キ及ヒ日本國ガ臺灣ヲ伐テ殺
害ノ報讎ヲ為カレシ琉球ノ被害人ハ日本ノ臣民ナリトノ条欵
ヲ明白ニ立テタリ
事已ニ斯ノ如シ然ルニ猶ホ日本ガ琉球ヲ所屬トスルニ付キ別
ニ引證ヲ要スルヤ否ナ決シテ要セザルナリ
然レ氏人或ハ余輩ヲ詰ラン琉球ヲ以テ日本ノ屬地ニ非スト云フ
ハ別人ナラズ琉球人ナレヲ如何ト是レ他ナシ大國ノ間ニ接シ

毎時争論ノ種子ト為一在兩國ニ岐属シ分取ス可ラル土地ト
フテ禍ヲ避ルノ策ノミ琉球人ハ若シ西隣國ノ内甲國乙國ヨリ
モ強盛ニナリ固益ノ為メ甲ニ属スル方ヲ便トスル場合ニ至
バ己ムヲ得サレバ若シ否ラサレハ譬ヘ一政洲ニテ土地ヲ全フ
シ平和ヲ保ツ為ノ主張スル中立ノ方法ト同一ナル利益ヲ占メ
ント欲スル者ナリ此方法遂ニ琉球ノ通言トナリ時機ヲ量リ或
ハ甲ノ藩属ト云ヒ或ハ乙ノ臣民ト稱シ其所為ニ矛盾ヲ生シ不
分明ニ至レルナリ例ヘ一琉球人が其交ル所ノ國ニ對シ約条ヲ
為スニ當リ時トシテハ支那ノ正朔ヲ用ヒ時トシテハ日本ノ正
朔ヲ用ヒ曾ニ定スル所ナキガ如キハ其誤ナリ千八百五十四年
合衆國ガ己ニ支那ト和親ヲ結ビシト聞キ以為ク合衆國ハ支那
ノ条約國ナリ未タ日本ノ条約國ニ非スト依テ米ノ艦隊長ベル
リト条約スルニ當リ支那ノ年号月日ヲ記セリ若シ此時日本ノ

年号月日ヲ記スル方が便ナレバ孝明天皇ノ正朔ヲ用ヒシナラ
ン

Blank columns for notes or additional text.



大藏經

